

10月10日は
「目の愛護デー」

気を付けたい角膜の病気と角膜移植

10月10日は目の愛護デー。毎年厚生労働省などが中心となって目の健康に関する活動が繰り広げられています。今回は、視力を左右する重要な役割がある角膜にスポットを当てて考えてみましょう。

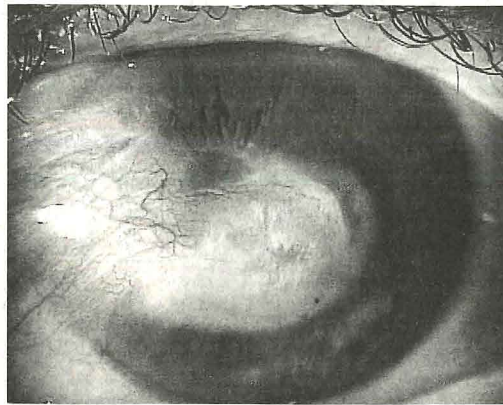
角膜とは

角膜(くろめ)は、眼球の最も前面にあるドーム状の透明な膜です。厚さは中央部で約0.5ミリ、直径は11〜12ミリで、眼球内への光の入り口であると同時に、入った光を屈折させるという重要な役割を果たしています。従って、この部分の変形や混濁が、視力に大きく影響します。

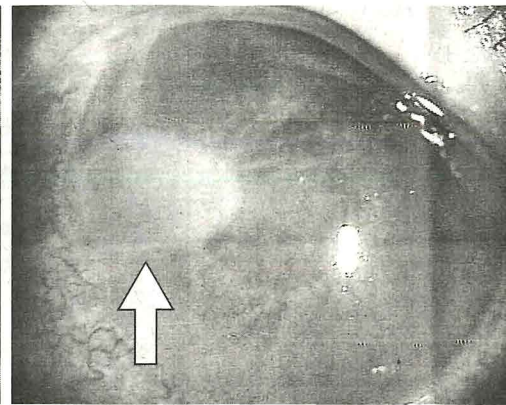
注意したい病気

角膜混濁の原因として多いのが感染症です。細菌のほか、カビ(真菌)やウイルスなどが原因となります。気を付けたいといけないことの1つが、電動草刈り機を使っていて飛んだ石が目に入った、枝で目を突いた、などといった外傷時の異物に付着している病原体です。いったん外傷による傷が治っても、2週間後など時間がたつてから感染症が活性化することがあります。

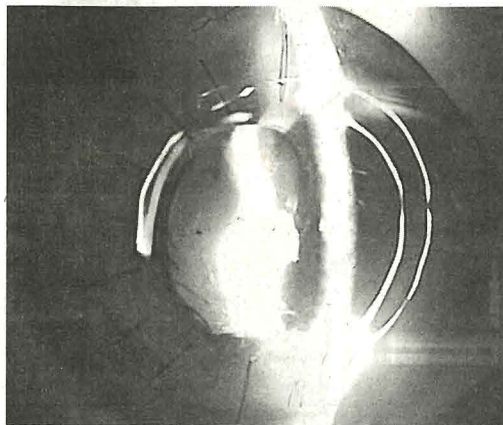
真菌感染は、進行はゆるやかですが、治療にも反応しにくく、場合によっては専門病院での治療が望ましいことも



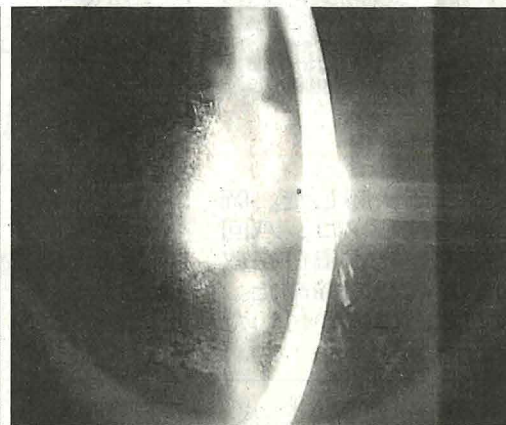
写真② ヘルペス性角膜炎を繰り返したことによる混濁



写真① 枝で目を突いたことにより生じた真菌性角膜炎



写真③ 水疱性角膜炎に対する全層角膜移植の手術前(右)と手術6日後。移植した角膜により透明になっている。(2018年9月、川崎医科大学附属病院)



細菌やカビ原因で感染症に

あります。いったん落ち着いても、白内障手術や全身の病気など、目周囲の免疫状態が低下する状態では再発することもあり、そのため数カ月単位の長期間の投薬が必要な場合もあります(写真①)。角膜に影響を及ぼすウイルスの一つにヘルペスウイルスがあります。頭部の神経組織にすみついており普段は無害ですが、何らかのきっかけで活性化し、角膜の神経を伝って表面に炎症を作ります。効果的な治療薬が存在するため治療は通常すみやかですが、何回も再発を繰り返すことによって角膜に強い混濁を生じることがあります。混濁が固定しないため

混濁固定すれば全層移植も

角膜移植の対象となる病気には混濁の他に、水疱性角膜炎と呼ばれる病気があります。角膜の内側には、内皮細胞と呼ばれる水分を角膜から排出する細胞があります。通常の5分の1程度以下に減ること、角膜が水ぶくれを起して濁ってしまう病気です。内皮細胞は再生することはないため、治療は角膜移植しかありません。内皮細胞が減少する原因には、緑内障やぶどう膜炎といった他の目の病気、外傷、感染症があるほか、体質(フックス角膜内皮ジストロフィーなど)で減少しやすい患者さんもおられます。水疱性角膜炎は、初期で角膜実質に濁

移植で視力回復

混濁が固定した場合には、混濁した部分の角膜を取り替える、全層角膜移植によって視力が回復できることがあります。角膜提供の意思を示された、亡くなった方の透明な角膜を用いて、手術を行います。濁っている部分を直径7〜8ミリの大きさに専用の器具で取り除き、透明な角膜を特殊な糸で縫着します。手術時間は90分程度です。視力はゆっくりと回復していきます(写真③)。

また、円錐角膜という角膜が薄くなり先端が突出するように変形する病気も、重症の場合は全層角膜移植で視力の回復が期待できます。思春期ごろから進行し30歳を過ぎると進行は止まると言われていましたが、最近の研究から高齢でも進行し得ることが明らかになっています。(川崎医科大学附属病院 眼科講師 藤本久貴)

「目の健康講座」のご案内

日時: 12月2日(日) 午後2時~4時

会場: 岡山県医師会館 三木記念ホール 定員: 300名(予約制)

講演

1. 「白内障の診断と治療について」
倉敷中央病院眼科 岡安 隆
2. 「失明原因1位の緑内障について」
川崎医科大学眼科 家木良彰
3. 「知っておきたい網膜の病気」
岡山大学病院眼科 木村修平

★目の健康相談会

会場: 岡山県医師会館 402会議室
時間: 午後1時~1時50分
受付人数: 20名程度(当日12時30分より受付)
眼科医数名で無料相談に対応させていただきます。

★機器展示(拡大鏡など)

参加ご希望の方は①②③いずれかでお申し込みください。受講票をお送りします。

- ① 往復はがき
〒700-0024 岡山市北区駅元町19-2
岡山県医師会館内 岡山県眼科医会事務局宛
- ② FAX: 086-250-6401
- ③ Eメール: okayamakengankaikai@coast.ocn.ne.jp

〒住所、氏名(4名まで連記可)、電話番号をご記入ください。締め切りは11月14日(水)。
お問い合わせ先
岡山県眼科医会事務局 TEL 086-250-1202
(平日午前10時~午後4時)
<主催>岡山県眼科医会・日本眼科医会

角膜移植のために ◆ 献眼のお願い ◆

透明な角膜が濁ってしまったために視力を失った患者さんが、再び視力を取り戻すために、角膜移植が行われます。角膜移植も他の臓器移植医療と同様に、献眼、すなわち死亡時に眼球(角膜)を提供してくださる方がいて初めて成り立ちます。

献眼は脳死の場合だけでなく、心臓停止の場合も可能です。献眼の意思がある方は、生前に岡山県アイバンクに献眼登録を行っておくか、運転免許証、健康保険証などで提供の意思表示ができます。本人の意思が不明の場合でも、遺族の承諾があれば献眼できます。

献眼は、まず家族または病院から岡山県アイバンクへ連絡することから始まります。夜間と土、日曜、祝日は岡山大学病院の眼科病棟に電話が自動転送されるので、24時間いつでも連絡できます。角膜提供のための眼球あるいは強角膜片(角膜全体に一部強膜を付けたもの)摘出は、亡くなった病院または自宅で行われます。

【連絡先】
(公財)岡山県アイバンク
〒700-0923
岡山市北区大元駅前3-57
☎ 086-223-6622

企画・制作/山陽新聞社広告本部